

## DMAT 研修に参加して

災害派遣医療チーム（Disasters Medical Assistance Team : DMAT）とは、大地震などの大規模災害や航空機・列車事故など、一度に多くの傷病者が発生した際に、現場に迅速に駆け付け、おおむね 48 時間以内の急性期治療を行うための専門的な訓練を受けた機動性のある医療チームです。

DMAT として活動するには、兵庫県災害医療センター等で実施される「日本 DMAT 隊員養成研修」を修了する必要があります。災害拠点病院の指定に先駆けて、当院からも今年の 1 月 25 日から 28 日にかけての日本 DMAT 隊員養成研修に参加しました。

DMAT は、医師、看護師、業務調整員の計 4~5 名から成りますが、薬剤師の私は業務調整員として研修に参加しました。

DMAT の活動は、本部活動、広域医療搬送、病院支援、域内搬送、現地情報収集や人命救助の現場活動等多岐にわたり、さらにこれらを自己完結型で行うことが原則です。このため業務調整員は、医療機器、薬剤、食糧をはじめ、情報収集・通信や移動等にかかわる機材、資材を管理し、現地では、情報の収集・集約と発信、記録などの活動を行います。

業務調整員として重要なことは、『機転・機敏・気配り』であり、チームのメンバーの安全を確保しつつ、現場の安全を確認し、生存者の安全を守る、この目的のために『必要なことは何でもやる』という精神であると学びました。

さらに薬剤師には、業務調整員としての仕事のほかに、医薬品の管理供給や医薬品情報について専門性を発揮することも期待されています。平時も、DMAT 出動時に使用する薬剤が常に使用でき、かつデッドストックにならないように薬剤の有効期限確認と品質チェック・薬剤の入れ替えを行うなどの薬品管理を私が担当しています。

できれば、このような経験や準備が役立つ時は来ないで欲しいのですが、災害は不可避なものであり、万一の時に備えてしっかり準備しておく必要があると感じています。

### ※ 災害時医療対応の原則 『CSTATTT』

C:Command & Control	指揮と連携
S:Safety	安全
C:Communication	情報伝達
A:Assessment	評価
T:Triage	トリアージ
T:Treatment	治療
T:Transport	搬送

安全 Safety 3S

- ①自分(Self)
- ②現場(Scene)
- ③生存者(Survivor)

